

Birds

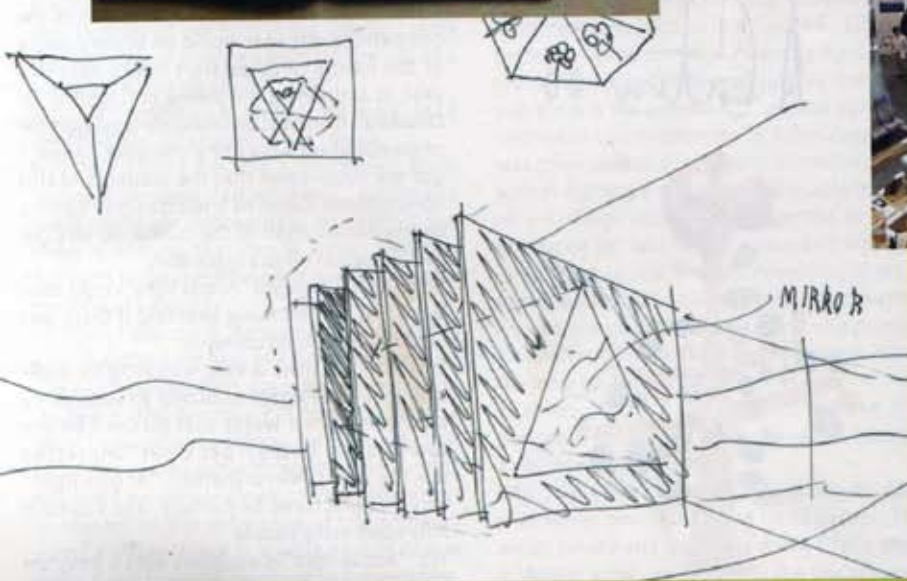
VOL. 4



特定非営利活動法人バードハウスプロジェクト会報

Special Interview
愛の巣は理想郷
Angelo Cortesi
アンジェロ・コルテージ

バードハウス作品展
ぞくぞく開催



地球は巣箱だ。
The earth is our nest.



Cecilia Hertz

セシリア・ハーツ (スウェーデン)

ランド大学理工学部で修士号を取得、住宅建築を専門分野とする。デザイン会社「umbilical design」を設立し、宇宙や鉱山・油田など地球上の極限的な環境のためのデザイン活動を行っている。NASAのジョンソン宇宙センター(JSC)、欧州宇宙機関(ESA)と共同で有人宇宙飛行のための宇宙船内部のインテリアデザインとレイアウトを提案した。彼女のデザインは欧州宇宙機関のSpace Expoで展示された。



Maria Joao Durao

マリア・J・デュラス (ポルトガル)

リスボン芸術大学で芸術を学んだ後、英国サルフォード大学で博士号を取得。リスボン工科大学建築学教授。建築における色彩学修士課程の主任教授。グラフィックデザインやインテリア、宇宙空間まで幅広い分野において色彩学を研究している。



Arturo Vittori + Andreas Vogler

アルトゥーロ・ビッターリ (イタリア) + アンドレアス・フォグラー (スイス)

Arturo Vittori氏は国際的に活躍する建築家で、ジェット旅客機の客室デザインなども手がける。Andreas Vogler氏はミュンヘン工科大学で「茶室」にヒントを得た次世代の住宅「マイクロコンパクトホーム」で知られるリチャード・ホーデン教授の助教授を務めていた。同大学で国際宇宙ステーションや有人火星探査のための宇宙建築学の指導などを行う。二人は2003年に共同で「Architecture+Vision」を設立し、航空宇宙産業の進んだ技術や考え方を建築やインダストリアルデザインに取り入れる活動を始めた。砂漠でも快適な室温を保つことができる、太陽電池を使用したテントを欧州宇宙機関(ESA)などとの共同研究で開発。「DesrtSeal」と名づけられたこのテントは、近代美術の殿堂と言われるニューヨーク近代美術館(MoMA)に展示されている。



Seiichi Onobori

尾登 誠一 (日本)

東京藝術大学美術学部デザイン科教授。JAXA(宇宙航空研究開発機構)との共同研究「微小重力空間における芸術表現の未来」、「宇宙茶室2—微小重力空間における“柔”環境デザイン—」を行う。JR東日本(株)鉄道橋梁色彩マニュアル、関西新空港高速湾岸線カラー全色デザインなど。

Annalisa Dominoni

アンナリーザ・ドミノーニ (イタリア)

建築家・工業デザイナー

ミラノ工科大学で工業デザイン博士号、建築学修士号を取得。現在はミラノ工科大学建築デザイン学部の教授で、スペースラボの研究計画、宇宙工業デザイン研究室の主任を務める。イタリア宇宙事業団(Italian Space Agency)、欧州宇宙機関(European Space Agency)との共同研究。



Akito Sogame

十亀 昭人 (日本)

1993年より宇宙建築学に関する研究、デザイン活動を開始する。2000年に東京工業大学大学院で宇宙展開構造物に関する研究で学位を取得。専門は宇宙展開構造物の幾何デザイン。宇宙建築の研究会であるCEGAS、SARCなどの研究メンバーや、宇宙航空研究開発機構(JAXA)共同研究員、小惑星探査機「はやぶさ」の研究開発員などを歴任。現在、東海大学工学部建築学科において、宇宙建築学に関する研究、デザイン活動を行っている。